

雪氷写真館⑧ ジュバニー南極基地/Jubany Base (Argentina) in the King
George Island, Antarctic Peninsula



写真 1 物資輸送のため上陸する水陸両用車と上陸用舟艇。



写真 2 ジュバニー基地の「洗礼」。外気温は氷点下。万がーに備えて岸に医者が待機している。



写真 3 ワルシャワ氷原末端にみられた珍しい氷河海食崖。崖の高さは 15m 程度。



写真 4 ワルシャワ氷原上に多数みられるクリオコナイトホール。

ジュバニー南極基地

2009 年 1～2 月にアルゼンチンの南極観測隊に参加して南極半島で氷河・凍土の観測を行った。調査後半にアルゼンチンの南極基地の一つジュバニー基地に 2 週間滞在した。

ジュバニー基地は南極半島地域北部の火山列島サウス・シェトランド中、最大の島であるキングジョージ島南部のポッター半島の露岩域に位置する越冬基地である。

基地は夏の観測シーズン真っ盛りで、生物や海洋の研究者でごったがえしていた。基地への人員・物資輸送には小型航空機（氷河上を離着陸）、ヘリコプター、ゾディアック（ゴムボート）、水陸両用車、上陸用舟艇など様々な乗り物が使われていた。

初めて基地に滞在する者は男女問わず必ず一度「洗礼」を受けることになっている。洗礼とは夜中に海氷漂う南極海での海水浴のことである。筆者も体験したが夏でもさすがに南極だけあって 2～3 分で震えがきた。

基地の背後には広大なワルシャワ氷原が広がっており、末端の大部分は海に達して、一部が珍しい氷河海食崖になっている。氷河海食崖の底では、現成のロジメント・テイルが観察できた。

また、ワルシャワ氷原は近年大幅に縮小しており、表面にクリオコナイトホールが多数みられた。持ち帰ったサンプルを国立極地研究所の瀬川研究員が分析したところ、ここのクリオコナイトホールには珪藻がみられるという世界のほかの地域にはない特徴があることが判明した。縮小著しいワルシャワ氷原では、今後数々の発見があるかもしれない。

福井幸太郎（立山カルデラ砂防博物館）
曽根敏雄（北海道大学低温科学研究所）